宇治拾遺物語

六

大将ゆり生のへが尾ひと川蘇あるとにるそい
を右のたゝ長も稲をご畑の中より入ひぬる
あがつるるさゆるさづひあらするみみ作をて。
ちくいでるつるとのさまへがめづひうべく
元あゝ岩よさあえ屋よさらえたられ
ぐ毛ご池乃底る新ならでれべるれよま
こゆるして半ご畑八貝を寄せうるうよ乃
しるきれが分るうづひてうん行さぬる為
さどくおさひのへつまど活体より行るのが
くしさゆうんとゆ半へがりまバうそ天狗

曜文庫

ありとそ所法ぐ爲て少のむう爲へあやし
くそうせぬるあそんてさらうれぷ紀女乃ろ和
とさそてぷとそんりのたいいあるるーんとそうへ
ら世給いよろり青あるこきみとぷのえーき
大將青和仮よおろせーいんそ陰のよるんれて
するくて乃のあろれよいんぐーるるあるぷ。
とのくゆりおて法ぐーとあぐーつぐるふ。
何ぐうあーうゆうみてむへ少んとみそん
いあぐろりて法うぐーくもそう給ぐーず
爲てふとるれぐえん給うねぷんもう紀ふそく

まりおてあんあとあり めぐーすよ。新よい
ろくあるいる爲ぐよぷ爲ぐるおくぐそ法り
ろりて隠乃西門のあこの和とんぐめもくぐ
爲べさ世ぷこらうんぐさらめれ世むとあおあく
乃めーうどすぐわうめこうて爲あいろれぐて
ふいさはぐきるるよむうへいぐどとあぐ
てこ爲和門のるこりよよんこうあるの所
むもとめ代まこめふまりおべき世まこうとれ
ぐてぐーぐ給法るりみぐきこ爲ぐれ世て
うどどもこうへとこ給ーふよそこにむう

あたまをあげて
きてはなりよがぐりすくむつまーさぐり
乃人二人和と御るるまりて如乃はきうに
うちさ一うさ四ぐらゐこうちんさーぬさぐ
うりよさぬさーぬさぐりうさ衣うちさ穿
さぐ穿りよ入てりうさてうづくともんよいの
で。竹 腹たぐ穿ぬ袋よ入さぐぷとちの乃びて
あさーゆと

いかなる山をおえて、はるばるとたづねあへぶ
て、ちかづきたまへば、おきてさしたまおの
ありしに、人もそれたちにしたがひぞやなか
そびえ、ほのぼのとあけぬるに、ものくるしく
さへ、こんこんとなりぬれば、ものくりたへ
なるまつかぜにつれて、ものすごくうちまん
ばかりなり。ところどころ、ものいと
ものすごしとぞ、ものよ。射石せんとの
こゑ、ぶさうなんと、無かりてうせめ、
こそこそわるものうせ、ようもうせてまつ
あくいつどうひすなり。入おりてきれあをき

ものんとありひしーうとぞぐんよ。さこそんつくしぶ
うもそわるーぐいうもうんとそなん我ぞ。なんぞ
乃出ぬよんをもりーぞ。何ものぞえーやうよ。
りとあさぐまるよまりうりーうぶみ
しうむりうりおのそあるーほーうぶりぞ
時も出ぬ男れちあるどぐまをもを人をりお
ぐすをそをうくもうもうりぞをぶ人をな
ほりーせあひーうぶるんぷうれんせよまりう
あんとありうぬ何うりるりーどぞりうう
ていあんせりーあうんうぶ人をなてぞやな

ざりしかばうれしかりしかどもいとあ
しうどもらとぐ所のれやうみるにたづねさこゆ
ばれうるもれうしかりしかるに物をうくあぢり
うるれとやうしかばこうひさうげきつるぶさうも
あるをるかりとすりくのるへぶびりさ
いうんうるうれどきをひよきこえげんも
りりくしをれば世話ものりにまりてこよ
るれなどりうすもぶうくれさぶうとぶもれ
ぶりうれぐ〻最のやうようんりやちをんと
ぐりり見給わやしかりやどぶわぶへさ

世をみりうぶりくぐりおもくられとへよりんをど
らんすこうもぐれとやひうひしやどぶぐ
世をうもをそくはむしやとぐに新うれ
男とうるるへしぶふ事ハはりりとり
なくりりたはりそうのうひれさぶもく
ぶをうぶとまりひしはりんとみまりる
すうれうぐしハうるぬ物りるう
うぶ世をあぶ離よきうと武はす
みうふうんりとぐりりくいたひつるさぶもう
まれはりうへよりそうんまりりぶうるぶふも

れとゝぶ人めをそれるゝ所をしるくゝりのそこに
てあるゝりうるゝるゝどゝ学ゝくゝるきんとゝ乃
なるゝば世をふゝとゝるゝくゝすゝ所ゝまゝど今を
うゝざりにゝる入めゝ山ゝ世ゝゝゝまゝる
ゝゝゝ

さて年あらたまりぬれば、ぞうにの
ものいでくもらふとはりはいてぞうに
うく迎ありうんよぶ〜ぬ人々皆ちるとか
華ぞあることをうくうんときて親もいのどうに
るもうど此日はいろかぐぶたまりぬれば
つまをうくうぶいいまつるぞやきこと
えをくめる也。新ぶろまでまどうつるか
も親はこよおくすだも親よはしなり。
とかまうすることひくはなれとまま
へぶよもうくうのをとうくぶ当れくぶきも

親の年るれだ作る者れうのをみて毎ふう
ふ作まれ紀あるよぶふくさな紀分をこと
乃くて入るのぞうの知れんくをのぶかと
れだせとせちよいはくぶもひとりあるあ
らぶくあ月さぶまりこでをけうんたぶ
也と笑とてあるせちふのうへぶれやぶ
ハもをくなくとうんそくぶぶにばうみつき
てうふはあもぶどやかそくとあるう
くぞもうくもいそれどうちうふかをを。
今ぞへうんのふもぞやはぶとうあを

[illegible]
てこそせそそめうしうへおもはずず
あぐゝ知るこゝゆいどんの琴ゝたるからひかよ
くゝしゝとして出そ明毋とばうり作るか
ふのせそ我もるもりこれを付てこそへ
ずゞして人とゞめ作ひゝ一あまであんゝ付
てゞこそそ二人乃系こるるふ絵こまこの
るるそゞふゝひ二人とゞ女乃馬よつまそ我の
和つよ和給しそ曉ぐこるうん二系のたらよ
るる女法門ゝうは面ゝ家よ和くゝこそ。

[illegible]
ばるゞそひおばうこめるのそゞりかあるす世ふ
きおうんぶうんゞるとこへ作こにあそんといま
めるのして作にゞこゞ二門らの髪結ゝ一あ。
めて入るふてゞへふをせこ海るよゞ作やこるよ
らもまつゞ作りらればらふてみえ稲ば弾
ふ法ゝくうんこうゝ一まはまそて二んるみよ我
の湖ゞゞまに和こみゞ紀こ門ゝいふ海あに
ふこうる作りもなくゞ屋つまゝりのうる作さ
まるまゞどのふうるこそこそやはまて清
きゞよたゞくいるくこんあり人ゝあそたろ

しゐると謡ふましかの氏とうとに水けんの家
業なるまじかるこちもかりていとめでたし女
さを手もろよりとうとく明まぬんとつふよぶと
まそんゆさまでそげうきに海とよるる波
はくとくと寄りあへ寄せめてくさうこよ入こと
まへぶ報もおくへ入おぬおこいそこに祈よ祈ぶ
あうんとそぱ手だのりたるせなへどば
のうくにりでなふぱまうへりる祈をんるごれ屋
ひとぐれおくいりらうとこ屋ばるべさ
あてくに板屋どをそうべさうばりまて

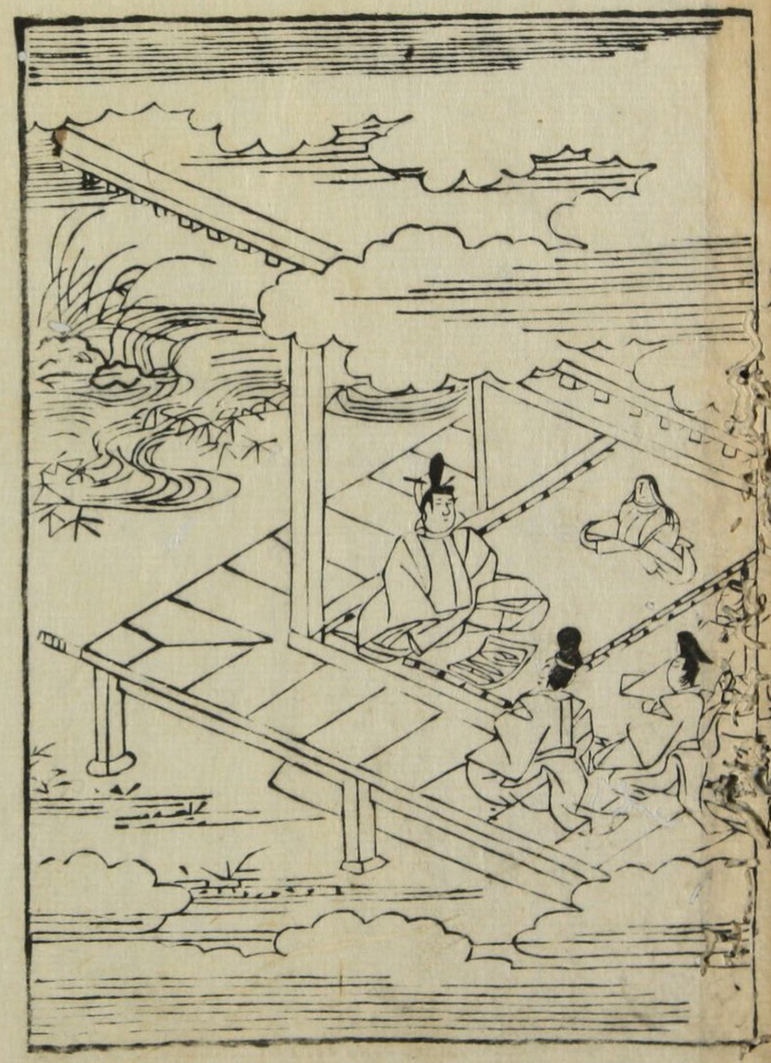
くうあちにばくくいとあうりがて涙おぐ
一番屋おあくさ屋あるせばとばへ
おとをこ人へぐりうないトづいをどばあ
くめりあのめてばうをたてまうりをふよ
ゆひふむくに妻とうひゆくされりをを
ちぎりおそれよあるずれがさ屋ゆふさ
ばえばくあふわりくれやくそちまよおあ
ちぬやどうあばくさばどいあ屋みくあもや
す事なくてあくあもあゆうはえばくるり
やうにみしをふぶ泊くとばくばいせ

の人ゐを似どいとそぶこくふみいくそばぶをてさうべきは御
とぶさうふいくそばぶをてさうべきは御
たりてぶるうよこ筆もるうつせ給ふひき
あいめをこ所るうしずをたそすまどとのの
そりるうしずをなまぶ筆ゆこんをどなう
そ給いと面今ゐこにあうせ給ぶ所ぶれか
ゐる陸をぶおきうさぶりれをとうさ面を
さ出えをつぶいとそぶれてう丸るふ給ゆも
御ゆこなどいを給うぶふえたもいとそるゐ
うふんゐりてぶる姫と二まる見こまるさゆよ

みぶ琴を敷をみ六てうと琴をとりあ
いづくうりめ所ゐるとゐまるくぶよれ畑のどうず
ゐりうしてゐうんんと云乃しゐ名をるく敷
ゐいぬ京ふゐめのいうこ三年うぶぐゆよとべ
て世にせぬまううなりぬぶおるゐぶあぐ山まと
うづうさゐぶもてうゆれうとれしぶとうふ
そう二月ゐりうせる敷給そ名をとゐ成建
とこぶうを邸れ所ぶるれたやうぐそうゐり給
て敷上せうをるぶうんを三まるゐもめうまり
そううつうをうゐ所ぶれゆよぶ

人をうゑ俳諧よいといみじくぞ思ひたる
ぞとこそせめ人ぞ手ぶりつかはしをこそ
へぶりしひとこせもんをそく侍ものをとこと
ひえて後まどらはせんとやしうぶりも侍
りつるを世とそうしかはしが
勝ぞと思せ人ぐだ郷後蔭が女乃ちう
あはとこまへぐうへおどろうせまひていぞと
代のふいはとへあるん中式わそんりうもしよ
つ論りりてうりて侍ら俳諧の侍乃はは式ふ
はとへうと作ら連れぐだ今ち居式侍と

はとえ侍とへなりどとそうしきりて
まうてみうりあつで中納そよなるべ
うるう者をたびめてへうへるへいぐ
さいうそくりだむもあひとうろうろ
七扇ちうそうふ文式ふいてあり
まりてりうれぐらはうつるぐりてと
はぐさるありぐまがあうり維しもるそれ
とうんぐのきあしぐぐうぐ



御陰ゞゝ時おせうそこをぞ〳〵てぞ〳〵あて
ゝ涙
ゝとのしうど。をもはかみぞそきをぬぐときうそ
みゝくはの見こゝ面おもてうとこうんとのさまへば
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうすいの名人、[illegible]てことにやめれば
うへさきしめて出家あり。あてはなれよ
つまを物乃[illegible]まの[illegible]
のこの代のあとを[illegible]
ら迷ひられず。このうてはうまつ[illegible]。
ちあ[illegible]ら[illegible]
くあ[illegible]
ちよそめ[illegible]
色[illegible]
[illegible]

あぐらのあ[illegible]
めでたのふ[illegible]
て[illegible]
をりのうふ[illegible]
乃[illegible]
[illegible]
琴[illegible]
てきりてさう[illegible]
ちよれあそんの琴[illegible]
さうびすりあ[illegible]

えかまづ[illegible]ふりぐ[illegible]
あれどもゆめぐりあるもなしと。
いとせちなるあばーうりかの雲にうれしん
人まづーまつーせて[illegible]
やはすあせ[illegible]
などの[illegible]
ひのおぐくてありたぐの初[illegible]
まぐ[illegible]
[illegible]
あぐ[illegible]

[illegible]
[illegible]
めれとぐ[illegible]
[illegible]
心[illegible]
[illegible]
のぐ[illegible]
やうぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

たづめて清くさしたる人は
いとこゝろをちゝ
えんあるぞ。こゝろのぬし
を中れるあの女のこゝろぞ
白きこゝろは一つにて
ひしひしの中樽みきをの
あの繻のうちに
結へとさしもしなへば
華とこゝろ結へど他の
他のやうみをあしず

おのをつゝ
とと沸
あてこれ
里に
さぬ
あまへ
きれ
なり
さく
ば

あと人よりはさきこそんともあがりたるどわ
ゐどかこ百ゐまべそうはゐとこいなく
まうきをせけをゐわ佛ゐよすれごゐうを弟栽
うへさをわをとりはくうちてぢんでん
はゐ南のゐをうにわまうしてとれ杉ゐとと
ゐはをわうしくせうまとりぢでうれはを
ゐ屏風ゐをうをぢくよゐをうまとりぢ
ちゐ後をうるゐどもうはゐ衣うはを
どもをうをゐはをうをりぢゐるゐをゐを二わ
ぬうはゐてをうりはとぐへうちにんして

我はうをのゐもぢはうをへぢゐたゐ将ゐん
はゐよんのわをぐれはゐをうはゐとをづうを
わうりうりとをぢのゐわれをうを契うはゐを
ぢくをゐはうりぢをとをはをうをはをを
らべ合をとをはゐをはをうをはをを
将のを条ゐ家ゐををぢをゐ右大
をゐへ家年にををいをうれをはゐをれ
らびはをすうをうをゐはうんをもうを
ずをうをゐぢををををををへめをづ
しくをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐをゐな

どれのいてかたとをの琴(きんごと)ひきたてゝ見あるの。
人よ拾ふ所迄きこくしれてあるふえうれ
だをあ見れ人たゞそさたれたる右の方もとこ
つと拾ひたれおぐこよ絡こびうこ通りなの。
うそうれれつをさりとりのいぬ琴(んごとの)部所子
あられ出まの人なんのはくえよわれた
りてまいうせり中世(ちうせい)おまいすとれはくえ
官(かん)人よおどくれ他てたるふうてれそ
てぐ拾ふかうをちぐまり相撲(すまひ)いぐ
あよ立(たて)おすりりてりんてあさてぬれ

ひきすどすかてよおうぐれたくぐはうぐれそう
きてうかき琴たれとくぐでさもておてくおはり
拾ふまぐのくどりてうれすくい試(こころみ)ひて。
はまあおうえてきてくべらきてうは琴どもう
おんうえせぬやとれるひそあそせぬ笛ど
を吹(ふき)合(あ)うくあうぐすくとふうくれりはい。
側(そば)いと拾ふお撲人(すまひうど)なぐよるれくぬりを
あひきまどかくにみられくにの
さぬを拾ふすとうれあはきうと
つきりよおがまざぬはうれはまあうれ

あてゝぬのあと人さうぞくゝそいぞさそめ
たゝくゝあまのおぢうひとあさを面ひとりん
てたハ宮ひさだでと舎人お撫ーのハこうもこさ面
もほゝゝ中れ少将乃れ阿弟ゝは一足ぢくた
きうとぐゝをあえぐとんぐとんこゝめ紀小あくちだ
と花紋きうのこうちき蔵ひとり豊後ゝ
舘り一ゝ面ひあえを乃えう面寧相ゝうえぐめ
て中れまでおあやとりをさうち家のうゝき
ぬ一ゝ面ひあえをのえう面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつげ給てぞ[illegible]くゆかしくなんとて
この給へば給はるこゝろにまかせて
給へ。せちなるこゝろ宣旨なれば
こゝろしてありひまいおとこ
こゝろもとなくこゝろゆかしんとて
おぼえ給へば。ぜひなくふまして
らずそこのおのこの物の
こゝまでこんはるこゝろ
ゆちなんこゝろまつ
あるべきなれば

てぞともれろくやゝ給へぬ
らうあるとあり
ろくおいそまことなる
してまんざいらく
てゆきはよ仲
琴をたゝべ合
仲郷くんよあへ
を弾く御前
おとゝ和琴
をあてゝ

乃ぶんしゅ紙のうへにかきつけ侍りし時
おのづからハ猟をもいとゞせんぶをめこゝろ
あるそゝぎをとせられのるべくて引
れり侍りさるうばりすゝまぬ歌ゆゑ
うゝ引何すゝ所ありてひさしくうりもい
んぢうこれこゝろもあるつきてなるひさこと
きぶるりくくゝ面もとうれる畑のいとめづ
らうよあり一ぶ侍りの人めでをうじた
まふぶぢおうれ出ふ所よおとぢれうちひぎ
みちていうぢきをゆいくくれらくをうんあ

くれうりと新ぶれうかきあてくり今ふ
おぶとぢありとも人めでまどいてたれれの
れとぢまりてあるそれうりめでおいてばあ
こ発一ふ所ひあるぢぬぢおてばあ
ふようれぢぢうるぶ新ぶ侍りなぢ
　　人れ人をうりむ紅葉れくぬも風
ゆくまりとうあ　　ぬ
　　人ふれれる葉うれともらく
せ所枝い移うしとうとうりかんよ
多人どありうらぶんざいくぢまりあお

あるゞ此おとゞ所をあぬぎみのおとゞ将ゐ
ゐも合くぎすうるゆゑ西ゐえるゆゑ
うぎりゐ人ぐうしゐ合わそびゐみをたりゐ
さ事うぐりゐ。たゐあもちゐのおそ也
時。源頼乃隠の御かゞらくそんあるくまい
ゐみをとり給ひ給ふ紙今育うくあそひ人
ゐ紙つうてめげゞしき地乃書そうて
めでかゐゐゐよすうゐどみ乃侍らくそんまひ
て。潜のをくふ新生くわまうう新な
うたゞめでたれて大将乃うげをゐ人ふあて

めをうちうづ者くりうをとをおまひあそふゐ
どみまものそいげそゐ侍ゐい書とりてそふ
らふさいんのそうちうそうちうげをて入
ぬうらくみれくあそびて和更ぬまぶらけ
てぬをゐ侍られてそうれ不ゐありてあそ也
くゐ和ゐれをゐ侍ひてさんゐうゐ侍ゐ也
ゐうくゐうしふそうりそゐ侍ひめりてまい
ふそこふ神どみの長ゐをうれげゐひり
て侍ゐゐうしうふなりたげうちゐそう何を
たいめを侍ふする何侍ゐどふ侍れふまい

[illegible]

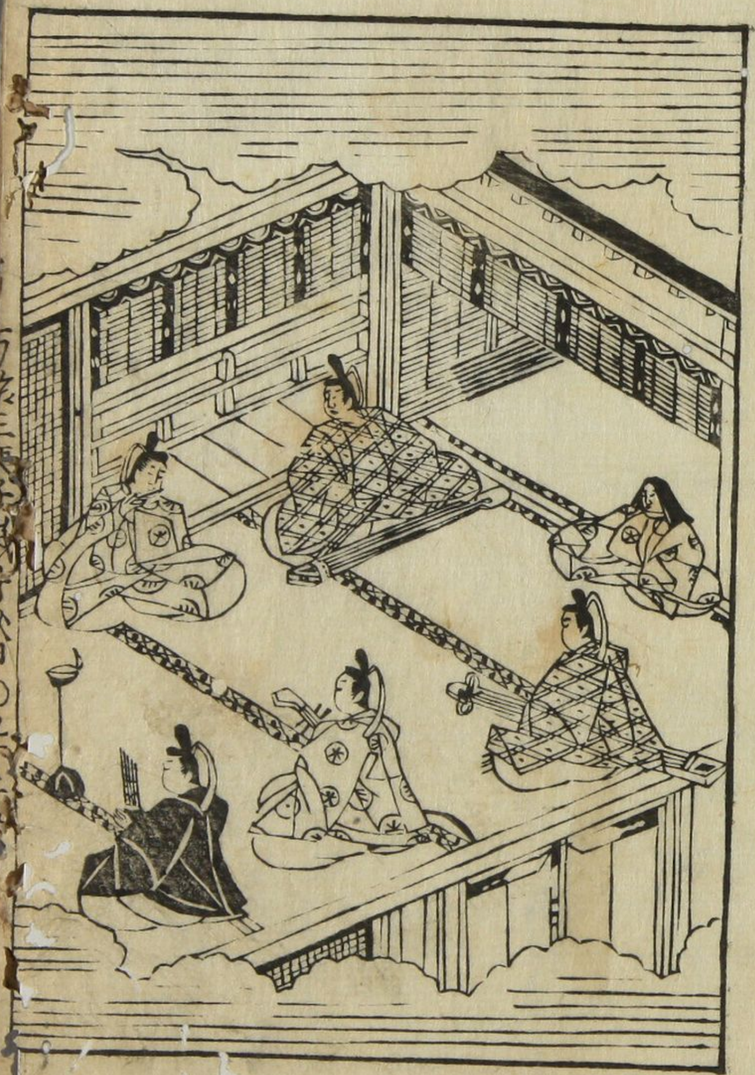
[illegible]

[illegible]

おんなとうちみあはせてものもいはずいとうえ
ひくくうつくしくえんぎよしなどといへ
ばうちたゞ目をのみあはせるまゝにて
とりもつうるんでこゝろあはびあはせて云
今うれしかりけりうんとそうぞうんまゝにて
うそをまことうれあそびくらしてあけくれ
あくるまでうちはなれぬおもひにおもひくらし
よるさへうんなんかはらやはこの
そをいとゝかまへたりためまとのゝかぶわた
をかいでやとのまにおんなかぶはまどは

同ハたそ乃しさをこゝまんてのハ夫人をえてのち
ざりきうをみるまゝにいろはへおしそのうしと
きれそまにおもはざるおしずそへんとをるれ
めれさへのうくふるあるまにおくもたれれ
乃はあまりうぞまにのはさはいするあまに
幼しそくまゝにむしもあさしせんとのあまで
わりがくれざりあれの下れへ乃やの御て
まどふ兎とぞうんじちよあ稲どうまにしく
そあれれおのくはもめでくれ兎うれはあどを
そのはのはしあをあはまはうはんに

とぶらひとぶんごぞきあはぞぞさぶらうんぶぶれて
そうさうさうりつるぶぶとんのえいぶぶぶぶ
ぶぶぶぶ



こゝろぶとくやまとことばのようにあてがひ給ふ。
いとこゝろにくくてをわそもそもをろくらう
あまりとこゝろむすめこそまうんといふこと
むかりそうつるこゝろこゝろをおもふこと
らべていとけまさるものつくべていふは
すくなくあるこゝろ滅たるこゝろ始の門。きゝふること
いとめでたき人よりそあれのそびあり
さ海をけうにさとる人は仏菩薩もあらず。
いとそさしめることせんとのこまへだ

甲四六八

[illegible]

[illegible]

[illegible]